

第20回 魚沼市「ありがとう作文コンクール」 優秀賞作文集

魚沼市では、「社会全体で子どもをはぐくむ運動」の一環として、そして、人への感謝の気持ちを感じとれる子どもに育ってほしいという願いのもと、ありがとう作文コンクールを毎年実施しています。

今年度の「第20回ありがとう作文コンクール」には、市内の小学生から792作品の応募がありました。その中から優秀賞に選ばれた4作品を紹介します。

◆ 優 秀 賞 ◆

ぼくのしんゆう	堀之内小学校	1年	いからし 五十嵐	あお 蒼
毎日おいしい給食を ありがとう	須原小学校	4年	おおつか 大塚	ゆな 結菜
当たり前の生活に ありがとう	小出小学校	5年	ほし 星	あんり 杏璃
お母さんのこと	広神東小学校	6年	しげの 重野	ほまれ 誉礼





堀之内小学校 一年 いからし 五十嵐 蒼 あお

ぼくのおうちは、ぼくが四さいのときに、にいがたしにおひっこしをしました。ぼくは、はじめてみるけしきやマンションにワクワクしました。

ぼくがはいったほいくえんは、ナカノスイミングがあります。ほいくえんの中にプールがあります。はじめてのときはとてもドキドキしました。せんせいはやさしかったけど、なかなかおともだちがでなくてかなくなくてないてばかりでした。

まいにち「ほりのうちにかえりたい。」といていました。でも、ねんちようになるとぼくのことをしんゆうといってくれるおともだちができました。

こたろうと、ういとです。まいにち三にんでいっしょにあそびました。いっぱいわらったし、いっぱいけんかもしました。ぼくがこまっているときはいつも二りがたすけてくれました。ずっといっしょにいれるとおもっていました。

でも、ぼくたち三にんは、ばらばらのしやうがっこうにいくことになってしまいました。

かなしくて三にんでいっぱいなきました。そして、ぜったいにおなじこうこうにいうとやくそくをしました。しょうがっこうにはいってはじめはつらいことばかりでした。やすんでしまうこともありました。そんなときニりは、てれびでんわでぼくをわらわせてくれてげんきにしてくれました。いまでもたまに、にいがたしにいて三にんであそんでいます。だからいまはさみしくないです。

こたろうと、ういとはずっとぼくのたいせつなしんゆうです。ありがとう。



毎日おいしい給食をありがとうございます

須原小学校 四年

おおつか
大塚

ゆな
結菜



「いただきます。」

わたしが学校の給食でこの言葉を言う時に思いうかべる人がいます。それは、えいよう士の先生と調理員さんです。わたしには、たまごとクルミのアレルギーがあり、小さいころから病院に通っています。学校でも、たまごとクルミの入っていない給食にしてもらっています。わたしは一年生になったばかりのころ、アレルギーだけでなく好ききらいもあり、給食がちゃんと食べられるか心配でした。でもそんな心配はすぐになくなりました。なぜなら学校の給食は毎日とてもおいしく、安心して食べることができからです。それはアレルギーがあっても、わたしが食べられるようにこんだてを考えてくれるえいよう士の先生のおかげです。みんなと同じものが食べられるようにたまごを使っていないクレープやタルトなどのデザートをこんだてにしてくれる時があり、とてもうれしいです。またえいよう士の先生は、使う食材や調味料の中にもアレルギーが入っていないか、気をつけてかく



にんしてくれています。野菜も苦手なわたしですが、味つけをくふうしたり見た目でわからなくしてくれたりするおかげでいろいろな野菜が食べられるようになりました。今では毎日の給食がとても楽しみになっています。毎日おいしい給食を食べることができるのは、えいよう士の先生だけでなく調理してくれる調理員さんのおかげもあります。わたしの母は調理員をしています。学校はちがうところですが、夏は熱く、冬は寒い調理場で毎日安全に気をつけて給食を作っていると聞きました。食中どくやきけんなものが入らないように気をつけてくれるおかげで、わたしたちは毎日安全安心な給食が食べられています。わたしたちが授業を受けている間に、小学校と中学校の給食を一生けん命作ってくれる調理員さんは本当にすごいと思うし、とても感謝しています。だからわたしはこれからもありがとうの気持ちを持って「いただきます。」を言い、しっかりのこさず給食を食べたいと思います。給食のこんだてを考えてくれるえいよう士の先生、給食を作ってくれる調理員さん、本当にありがとうございます。



当たり前の生活にありがとう



小出小学校 五年 星 ほし 杏璃 あんり

学校の人々と楽しく遊べる、学校に行つて勉強ができる、美味しいご飯が食べられる、好きな時にゲームができてテレビが観れる、安心して夜ねれる、家族みんなでくらせる、そんな当たり前の生活にありがとうを伝えたいです。

それは石川県の能登半島地震とお母さんとおばあちゃんから聞いた中越地震、私が読んだ戦争の本から気づかされました。

一つ目は、石川県能登半島地震です。この地震は、今年始めの一月一日の午後四時すぎ家族でDVDを見ているときに起きました。テレビやスマホからは、緊急地震アラートが鳴りひびき、すごくびっくりしました。



私が今までで感じたことのない揺れを経験しました。テレビでは、能登半島の様子が写し出され、家の一階がつぶされていたり、火災で何軒もの家もえてしまったり、津波で家が流されたりしていて、地震の大きさを改めて実感しました。その後もテレビでは、そのときの様子が放送され、寒い中ビニールハウスや車庫の中で過ごしている人もいました。また、体育館で大勢の人とずっと生活する人達もいて大変そうでした。楽しいお正月が一瞬で悲しい出来事変わってしまった。あれから七カ月経ちますが、今でも自宅に帰れない人がたくさんいます。一日でも早く震災前のくらしにもどれたらいいなと思います。二つ目は、お母さんとおばあちゃんから聞いた中越地震です。中越地震とは、二〇〇四年十月二十三日に起きた中越地方を震源とし



て発生した、マグニチュード六・八の地震です。幸い家族みんな家にいて、夕食のじゅんびをしている時でした。地ひびきと大きな揺れで物はたおれ落ち、その夜は近所の方とテントを張り外でねることにしました。また、いつ来るか分からない余震にとてもこわかったと言っていました。ですが、お母さんが住んでいる町は比較的早く、水や電気、ガスが使えるようになり家での生活ができるようになりました。しかしひがいがひどかった所では、道路が通れず、食料が届かなかったり、ライフラインが止まったまままで住んでいる場所をはなれなければならぬ人も出ました。今までの生活が大きく変わり不安だったと思います。また土砂くずれで家族三人が生き埋めとなり、当時二才の男の子が助かったというニュースは大きな話題となりました。



奇跡的な救出劇だったそうです。これからもつと防災意識を高めていくためにも、私は学校で行うひなん訓練を真けんに取り組み、命を守っていきたいと思いました。防災用品をそなえることも重要だと思いました。

三つ目は、私が読んだ戦争のお話の本からです。今から八十五年前に始まった第二次世界大戦をテーマにした「あの花が咲く丘で君とまた出会えたら」という小説で私は戦争のことをより深く知り、興味を持ちました。

約六年間も続いた大きく長い戦争です。毎日、空襲におびえながら食料も少なく、その日を生きるのに精一杯のくらしです。大切な家族や友人、恋人を空襲や特攻隊で亡くした人は大勢いました。



本当に今とは全然ちがうんだなと思い、私は幸せだと思いました。二度とおそろしい戦争はしてはいけないと強く思いました。私は今回、大きな地震を経験したり、家族から話を聞いたり、読んだ本などからいかに平和な日々をくらしているのか分かりました。この幸せな日々を当たり前と思わず、感謝の気持ちを持ち、ありがとうと言いたいです。



発表会



お母さんのこと



広神東小学校 六年

しげの
重野 誉礼 ほまれ

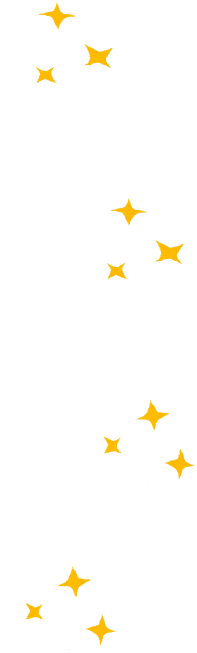
お母さんは入広瀬の施設に勤めています。学校行事や地域や買い物先で、知り合いの人とお話をするとき「雪が多くて通勤が大変でしよう？」と、よく心配してもらいます。だけど、毎回「全っ然」。雪の量は多いけど、向こうは除雪がとっても上手でね。道路はきれいで走りやすくてね。そりゃあ、年に二回くらい通勤が大変なこともあるけど、その時は市街も大変なはずだから一緒だよ。」と、雪道がきれいなことを、自分が作業をしていないのに、まるで自分のことのように自慢げに話しています。そばで見えていて、面白いです。



お母さんは、大人なのに将来の夢があります。地域のスクールガードになって、毎朝、小学生と歩いて健康になりたいこと。髪の毛を金髪にして、お兄ちゃんの吹奏楽の観覧で、お兄ちゃんから見つけてもらいたいこと。孫の子守りをするにも憧れていて、孫がいる職場の人を超えらやましがっています。地域の「弥三郎ばさ」の昔話に、ばさの切ない気持ちが分かると、泣いていたこともありました。



私は夏休みの少し前にコロナウイルス感染症にかかりました。あまり高いお熱も出なくて軽症でした。私が明日から学校へ行けるタ イミングで今度はお母さんにコロナウイルス 感染症が伝染してしまいました。私と違いお 母さんは高熱でインフルエンザみたいだと寝 込んでしまいました。私のせいで難儀になっ たらどうしようと、お母さんに謝りました。 「お母さんの予防対策の何かが足りなかった だけで、あなたのせいではないよ。」と、優 しく返してくれたので、少しホッとしました。 私は、お母さんに聞きながらご飯の支度を 手伝いました。左側でお鍋を見ながら右側で 野菜を洗ったり切ったり・・・。作業する順 番も考えながら調理しないと上手に完成でき なくて大変でした。



お母さんがお勤めをしながら、食事の支度 や家のこと、私たち子どものお世話をしてい ることが、どんなにすごいことなのかも、分 かりました。そのことを話すと「それは、お 母さんだけじゃないと思うよ。世の中のお母 さんみんなが子どもたちが大事だから、お 家でご飯を作ったりお世話したり、あなたた ちの生活や進学のために働いて、稼いでいる んだと思うよ。」と、教えてくれました。

私は、将来どんな親孝行をしたら良いかも 聞いてみました。お母さんは「親孝行なんて 考えなくて大丈夫。だって、お母さんも自分 のお母さんに大事に育ててもらったから、そ れと同じことを返しているんだよ。だから将 来は、自分が大事にしてもらったことと同じ ように、自分の家族や他の人のために尽くせ るような大人になって欲しいな。」と、言わ れました。



思い返すと、お母さんの誕生日に、おばあちゃんがバースデーケーキを届けてくれたことがありました。いちごのバースデーケーキでした。お兄ちゃんチョコレート、私はフルーツのバースデーケーキが良かったと、おばあちゃんに言いました。

おばあちゃんは「今日はおばあちゃんの娘の誕生日なんだから、娘の一番好きなケーキにするのが当たり前でしょう。ほまれたちも誕生日には、お母さんから自分の一番好きなケーキを用意してもらおうでしょう。」と、言われました。お母さんは大人になっても、おばあちゃんから大事にされているし、すごく嬉しかったと思います。

コロナウイルス感染症にかかって大変だったけど、たくさんお母さんと話せて、世の中のお母さんたちのがんばりが分かりました。

私も将来、自分が大事にしてもらってるところと同じように、人にお返しができるように勉強や運動をがんばりたいと思います。大好きです。お母さん、いつもありがとう。



発表会



第20回ありがとう作文

応募作品数

学年	1年生 の部	2年生 の部	3年生 の部	4年生 の部	5年生 の部	6年生 の部	総数
応募作品数	50	70	173	198	202	99	792
優秀賞	1			1	1	1	4
入選賞	3	3	3	3	3	3	18

ありがとう作文も令和6年度で20回目の節目を迎えました。
感謝の言葉、子ども達の「ありがとう」の気持ちは伝えたい相手に
真っすぐに伝わっていると感じております。

今年度も市内の多くの小学生から応募がありました。受賞とは
ならなかった作品もどれも素直な「ありがとう」の気持ちが書かれて
いて、とても素晴らしい作品ばかりでした。

たくさんのご応募、ありがとうございました。(生涯学習課)



ありがとう!



発行 令和7年2月2日
魚沼市教育委員会事務局 生涯学習課
TEL : 025 (793) 7480
FAX : 025 (792) 1261
E-mail : syogaigakusyu@city.uonuma.lg.jp

